

新居浜市過疎地域持続的発展計画・新居浜市辺地総合整備計画（案）に関する意見募集の結果について

令和3年9月3日
企画部 総合政策課

- 1 意見募集期間 令和3年8月1日（日）～8月27日（金）
- 2 意見提出人数 4人（個人4）
- 3 意見提出件数 8件
- 4 意見の概要と意見に対する考え方

番号	提出された意見の概要	意見に対する考え方
1	「観光交流施設」は日帰り中心の見込みであることから、それだけでは地域を持続的に維持するのに不足していると思われる。そこで、旧別子山地区周辺の自然散策なども含め一泊二日で体験型SDGs研修を実施するための「SDGsを中心とした学習施設」を設置し、全国に誇れる将来とも長く使える立派な施設を造ることが重要と考える。	「観光交流施設」は、宿泊を想定した施設を計画しており、ご提案の「SDGsを中心とした学習」につきましては、施設整備後のソフト事業の中で検討してまいります。
2	地域から出る「生ごみの堆肥化」活動で、別子小中学校（環境教育の一環）と地域住民が協力して、学校や家庭から出る「生ゴミの堆肥化」活動を地域全体で進め、出来た堆肥を使った自然栽培の野菜や果物を地域内の施設で使ってはどうか。それらが地域ブランドになれば一石二鳥である。地域の人の感情に沿った地域への愛着の観点からこのような施策は必要と考える。	市では、ごみ減量のための生ごみのたい肥化講習会や生ごみ処理容器等設置への補助事業を実施しており、それらを活用するとともに、「別子山ブランド創出事業」等で取り組む有機農業による農産物の栽培の中でたい肥の活用施策を検討してまいります。
3	観光は、ハードだけ整備すればいいというわけではない。魅力づくり（ソフト）も同時に力を入れなければいけないが、地域で取り組んでいる別子山の魅力的な森づくり、癒しの森づくりにつながる事業の記述が無いので、追加すべきではないか。	関連する事業として、「2 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成 イ 地域間交流の促進、人材育成」では、「個人の価値観が多様化し、余暇時間の増加による生活様式の変化等により、本物の自然への魅力が見直されている。・・・恵まれた自然景観や産業遺産等地域文化の特色を活かし、貴重な資源として活用し地域間交流を促進することで、交流人口の拡大を図る。」 「13 その他地域の持続的発展に関し必要な事項」では、「別子山地域の自然環境、特に、森林環境を保全し、豊かな森林資源を活用するため、・・・体験型環境学習、自然探索等の場として活用し、地域間交流事業を推進する。」等を記述しています。 なお、地域で取り組む「別子山スローな森づくり事業」に関連する事業は「別子山交流促進事業」の中で実施を検討してまいります。

4	別子銅山の跡地「社宅、病院、娯楽場、配給所、坑口等」の記念地としてこれらの跡地にシダレ桜を百本程度植樹し桜の公園とすれば名所ができ、今後の管理も容易になる。	別子銅山跡地の森林については、民間企業の所有地であり、桜の植樹や公園としての活用については現状では難しいものと考えます。市が借り受けている旧別子観光センター跡地等の利活用を進めてまいります。
5	ゆらぎの森の木工作品展示館が全く利用されていないため、建物をジビエの加工処理や販売に利用するように改造し、近くに養魚設備を併設し、パーゴラを解体し、跡地に円状に垂れ桜を植樹すれば集客率が向上する。 また、ホテルの各部屋から、山岳地帯の素晴らしい眺めが一望できるように立木の整備を図る。	ゆらぎの森の宿泊施設の近くにジビエ加工場を設けることは、景観や施設の性格上、好ましくないと考えておりますが、養魚設備を含め、設置場所について今後協議してまいります。 パーゴラにつきましては、見ごろの時期には多くの集客があり、地域の活性化に寄与しているものと考えておりますことから、解体はせず、より一層の集客につながるようイベント等を検討してまいります。 立木の整備につきましては、集客力を高めるため、「ゆらぎの森施設整備事業」の中で検討してまいります。
6	木材センターも新しい設備に改築し、私有林の杉ヒノキも利用して建築資材の加工販売が望まれるため、育成能力のある人材の配置や、営業力も付け、市としても優秀な職員の派遣も考慮してはどうか。	別子木材センターでは、経営計画に基づき、令和3年度から経営の安定化に取り組んでいます。経営計画では、生産性の向上に向けて工作機械類（集塵機、カットソー、フィンガージョインター等）の更新等を予定しており、今後、別子山地域のヒノキ間伐材を主な原材料とした積層間柱、フリー板の生産販売を重点目標として営業活動に注力することとしております。 また、木材センターでは公益財団法人えひめ産業振興財団のコンサルタント派遣による経営診断とアドバイスを受けており、今後も継続してまいります。ご提案の職員の派遣につきましては、木材加工業や企業経営等に関する専門的知見を十分に有する人材の確保・育成が必要でありますことから、今後の課題とさせていただきます。
7	地域振興のため、集落の状況把握、集落点検の実施、住民と住民、住民と自治体との間での話し合いの促進等は重要であるため、集落支援員制度等を積極的に活用する。	ご提案の集落支援員制度等の活用につきましては、先進事例等を調査研究し、別子山地区での有効性を検討してまいります。
8	ジビエ解体施設、アメゴ（淡水魚）養殖施設について、ジビエ解体作業の見学や、釣り堀に利用しやすいし、湧水又は地下水の確保が、筏津に比べ安易と思われるため、ジビエ解体施設、アメゴ（淡水魚）養殖施設をゆらぎの森へ集約する。	ゆらぎの森の宿泊施設の近くにジビエ加工場を設けることは、景観や施設の性格上、好ましくないと考えておりますが、養殖施設を含め、設置場所について今後協議してまいります。